02 創業1950年 株式会社 佐々木電機

引き継ぐ時期を明確にして スムーズな事業承継を実現

受け継いだ人 中浦 正雄さん

Profile

安芸高田市出身。崇徳高校卒業後、長崎総合科学大学に進学。大阪の輸入雑貨商社に就職し、広島の百貨店に配属される。叔父の慎二さんの声かけで、佐々木電機に転職。

若くして事業を継承 生き残りをかけた大勝負

1950年に創業した佐々木電機は家電の販売だけでなく、地域の方の困りごとに応える何でも屋さん。水回りなどのリフォームやオール電化、害獣対策のための策の設置など、土木、水道、建築など多岐に渡るサービスを提供しています。「佐々木さんの所に行ったら何でもしてくれると言ってくれるお客さまの声に応えたくて、頼まれたことは何でもやってきました(笑)」と話すのは2代目の佐々木慎二さん。7割以上が町内のお客さまで、2代、3代に渡って利用する人も多いと言います。**創業当初から顧客の依頼に真摯に、そして丁寧に向き合うことで実績を築き、信頼を得て地域の唯一無二の存在へと成長してきました。**2代目の慎二さんが先代から事業を受け継いだのは39歳の時。大手の量販店が市内に進出し、町の電気屋としての売上が減少している時でした。慎二さんは、生き残りをかけてエディオンのフランチャイズに加入し、旧道沿いだった店舗を県道沿いに移転。「借金をすることになりましたが、若さも元気もあったからできた決断でした」と振り返ります。

渡す方も引き継ぐ方も 若くて元気なうちに

そんな慎二さんは、**60歳になったら甥の中浦正雄さんに事業を承継すると心に決めていました。**「周りには、まだ若いのになぜ?体調が悪いの?とよく聞かれました。借金返済の目途が立つのが60歳だったこと、そして何よりも渡す方も受け継ぐ方も元気で体力があるうちに引き継ぎたかった」と話します。急なハプニングで慌てて事業を継承するよりも、**準備をしっかりしながら引き継ぎの期間を長くとれること、計画的に進めることができること、正雄さんがいつでも質問ができる環境であることなど、多くのメリットがあると考え、この道を選択。**社長と専務として20年間一緒に働いてきた正雄さんも、「いつか自分が継ぐんだ」という高い志を持って、仕事に取り組めたと言います。具体的に話が進み始めたのは、事業を承継する1年ほど前のこと。商工会を訪れ具体的な手順を確認し、税理士や公認会計士などの専門家とともに準備を進めました。

資格を取得し、現場でユンボを使いこなす正雄さん。屋外での作業もお手の物。町の電気屋さんの域を超えた、幅広いニーズに応えています